

<栄寿会京都支部2019年度 秋の行事報告>

報告者：常木良一

岡山村田製作所および旧閑谷学校見学

実施日：2019年11月15日（金）

参加者：29名

春の行事の野洲事業所見学に続いて今回も岡山村田製作所(以下OMC)見学と続けて村田の施設を見学する事になりました。

会社を辞めてもやはり拡大を続ける村田製作所の現状はいつも気になりますし、個人では見学が難しいので栄寿会として会員に最新技術を身近に見ていただこうと企画しました。

京都駅八条口のアバンティ前で受付をし、同時にOMCで履き替える上靴のサイズを確認してサイズ毎の人数をOMCへ事前連絡しました。

8時前に総勢29名が揃い早速バスで出発です。

参加者の高齢化が進んで心配なトイレも今までの1時間半毎のサービスエリア立ち寄りを1時間毎に短縮し、また「非常事態対策品」も用意して安心してバスに乗ってもらいました。

備前ICから国道2号線に降りてしばらく行くと片側相互通行の渋滞に巻き込まれ、OMC到着が20分遅れの11時20分になってしまいました。

OMCでは唐木社長以下早くから出迎えの準備をさせていただいており、申し訳なく思いました。

到着後すぐに上靴に履き替えましたが、サイズ毎の上靴が人数分並べられていたのかかわらず自分のサイズの靴が無い人がおり、申告以外の靴を履いた人がいたようです。

早速会議室に案内され、唐木社長よりOMCの売り上げ、従業員数、生産品目などの説明がありました。

是非見せてほしいとリクエストしていた樹脂多層基板の「メトロサーク」がどのようなモノか、第四製造部大西部長より概要説明があり、詳細を大森泰男シニアマネージャーにさせていただきました。

高周波・低ロスで自在に曲がって組付け易く、思い通りの設計が可能でスマートフォンのアンテナなどに使われているとのことでした。



説明終了後、マスクと防塵服を着用し、ワイヤレスイヤホンを耳に掛け、2班に分かれてメトロサークの工程見学です。

通路はそんなに広くはありませんので、設備に触れないよう気をつけながら説明を聞き、工程を見学しました。

メトロサークがどのようにしてできていくのか、各工程でサンプルを手にとって、こんなに薄いのかと驚きながら見て廻りました。

次世代通信規格（5G）などにも使われる今後成長の期待できる製品であり、OBとしても頼もしい製品がOMCで生産されている事が確認できました。

帰り際に玄関で全員揃ってOMC見学記念写真を撮りました。

OMCの方が撮った写真を人数分早速プリントしていただき、旧閑谷学校まで届けていただきました。何から何まで細かい心遣いをしていただき感謝の念しか有りません。



OMCを後にして「日本のエーゲ海」牛窓の昼食処、「ザ・ホテルリマーニ&スパ」へ。ここも予定より20分遅れの到着です。

円卓6テーブルにそれぞれ2本ずつ乾杯用のビールが用意されています。

塩山支部長の挨拶の後、笠次さんの乾杯で宴が始まりました。

今回はオータムプラターランチにスープをプラスした料理です。



14時15分にホテルを出発して特別史跡旧閑谷学校へ向かいました。

備前市観光ボランティアガイド協会3名に学校内を約40分案内してもらいました。閑谷学校は江戸時代前期の寛文10年（1670）に岡山藩主池田光政によって創建された現存する世界最古の庶民のための公立学校で、講堂は国宝になっています。閑谷学校の歴史、校門（鶴鳴門）や石堀（せきへい）などの説明を受けた後、聖廟、講堂の見学をし、国宝の講堂には上がって説明を受けました。丁度紅葉の季節で「楷(かい)の木」が赤く染まって絶好の紅葉見物も出来ました。



旧閑谷学校を16時10分に出発し、当初は備前ICから帰る予定でしたが、ガイドの人から2号線の渋滞を考えると和気ICから帰った方が良いと助言をいただき、そのようにしてバスを走らすと渋滞もなくスムーズに京都駅に到着する事が出来ました。帰りの車中ではビールなどの飲み物とつまみが配られました。

今回の行事はOMC唐木社長以下多くのスタッフの方々の心のこもった対応と共に旧知の人との再会ができた人もいて、印象深い見学会になった事と思います。